

SHIRAKOBATO

しらこぼと



2003.4

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 228

日本野鳥の会 埼玉県支部

さぎ山記念公園探鳥会 15年の記録

海老原美夫（さいたま市）

「年に1回くらい酒を酌み交わす探鳥会があってもいいんじゃない?」「そう、ほろ酔い探鳥会なんて」「泥酔探鳥会じゃないよね」「やるとしたら、お正月。担当は海老原、お前だ!」なんていうことで1989年から始まったさぎ山記念公園探鳥会。15年間の記録は、毎年調査日を決めた長期調査の記録になりました。

■探鳥会のコースなど

さいたま市の東部、見沼田んぼの一角、かつて「野田の鷺山」があったさいたま市上野田地区に位置するさぎ山記念公園に、毎年1月3日午前9時30分に集合し、通常の探鳥会と同じく数十人が双眼鏡とフィールドスコープで観察。終了は正午ごろ。鳥合わせでは、2人以上が声又は姿で確認したものをリストアップします。数の情報は記録しません。

さぎ山記念公園から南に向かって、かつて鷺山があった屋敷林、畑などを観察してから西に向かって見沼田んぼに出ます。見沼田んぼと斜面林を観察しながら更に南に進み、野田小学校付近で田んぼの中に降りて西進、加田屋排水路岸に出て北に向かい、さぎ山記念公園の西に位置する見沼自然公園の中を通り、元に戻る全長2km程度のコースです。

■全勝の鳥たち

ちょうど15回だから、大相撲の勝敗表を連想しませんか? 観察確率100%、全勝の鳥たちは、コサギ、コガモ、キジバト、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ツグミ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒロ、シメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラスの19種。全観察種数の内31.1%が全勝です。これでは優勝を決めるのが大変ですが、全勝の鳥が多いことは、この地域の冬環境が比較的安定していることを物語っていると言えます。

■増えた鳥たち

オカヨシガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、バン、オオバン、カワセミ

の7種が勝率を上げています。この内カモ類とバン、オオバンは、見沼自然公園の池が造成されたことが原因として考えられます。カワセミは、ある人が、加田屋排水路で写真撮影のための生簀を設置していたことがあるので、それが影響しているのか、あるいは個体数が増えているのかわかりません。

■減った鳥たち

クサシギ、イソシギ、タシギ、シラコバト、ヒバリ、タヒバリ、ウグイス、カシラダカ、オオジュリン、オナガの10種の白星が減っています。もう1種、タゲリが表の上からはあまり明らかではありませんが、かつての飛来数を合わせて考えると、数の面から、減少していると言えます。

この11種を分類すると、

[水辺環境] クサシギ、イソシギ、タシギ。

[田んぼ葦原環境] タゲリ、ヒバリ、タヒバリ、カシラダカ、オオジュリン。

[田んぼ林環境] シラコバト。

[林環境] ウグイス、オナガ。

となります。

この環境分類は筆者の感覚的なものですが、見沼田んぼ周辺のすべての環境にわたっていると言えます。

観察確率100%の鳥たちが多く、比較的安定しているように見える一方で、実はすべての環境にわたって少しずつ変化が起こっているのではないかと、考えさせられます。

年に1度野外ホームレスパーティーで遊んでいるような探鳥会でも、記録を整理すれば何かが見えてくることもあるという一例です。あなたの遊んでいる所では、いかがですか?

表 1月3日さき山記念公園探鳥会の記録

種名	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	0	1	2	3	観察確率
1 カイツブリ				○	○		○	○	○	○	○	○	○		○	60.0
2 カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		86.7
3 ゴイサギ				○							○					13.3
4 ダイサギ		○		○	○	○		○					○	○	○	53.3
5 コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100.0
6 アオサギ		○	○	○				○	○	○	○		○	○	○	66.7
7 カルガモ		○				○	○	○		○	○	○	○	○	○	66.7
8 コガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100.0
9 オカヨシガモ									○					○	○	26.7
10 オナガガモ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	93.3
11 ハシビロガモ					○	○					○	○	○	○	○	46.7
12 ホシハジロ				○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	73.3
13 キンクロハジロ				○		○	○	○		○	○				○	46.7
14 オオタカ			○			○	○		○	○			○	○		46.7
15 ノスリ														○		6.7
16 チョウゲンボウ			○	○		○						○		○		33.3
17 コジュケイ	○	○	○			○				○					○	40.0
18 キジ			○			○		○	○							26.7
19 クイナ									○							6.7
20 バン									○	○	○	○	○	○	○	46.7
21 オオバン														○	○	13.3
22 コチドリ						○										6.7
23 イカルチドリ											○					6.7
24 タゲリ	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○		86.7
25 クサシギ			○	○	○	○	○									33.3
26 タカブシギ					○											6.7
27 イソシギ				○	○											13.3
28 タシギ	○	○		○	○	○	○									40.0
29 セグロカモメ					○											6.7
30 シラコバト	○			○												13.3
31 キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100.0
32 コミミズク				○												6.7
33 カワセミ							○						○	○	○	26.7
34 アカゲラ											○	○				13.3
35 コゲラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100.0
36 ヒバリ		○		○		○			○							33.3
37 キセキレイ	○	○					○		○	○				○	○	53.3
38 ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100.0
39 セグロセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100.0
40 タヒバリ	○	○			○		○									26.7
41 ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100.0
42 モズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100.0
43 ジョウビタキ	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○		○	80.0
44 アカハラ					○							○				13.3
45 シロハラ			○	○					○			○	○		○	40.0
46 ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100.0
47 ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			66.7
48 シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100.0
49 メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100.0
50 ホオジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100.0
51 カシラダカ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			80.0
52 アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100.0
53 オオジュリン	○		○	○	○	○	○		○							46.7
54 カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100.0
55 シメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100.0
56 スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100.0
57 ムクドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100.0
58 カケス	○		○					○		○		○	○	○	○	60.0
59 オナガ	○	○	○	○	○		○	○	○			○	○			66.7
60 ハシボソガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100.0
61 ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100.0
観察種数	33	33	35	41	37	38	38	32	38	33	38	36	36	36	36	平均 36種
参加人数	83	62	53	59	82	55	52	54	60	49	52	55	65	45	40	平均 58人

2002年秋 埼玉県タカの渡り調査

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

本調査は、9月21日、22日に実施されたが、天候の関係から渡りの時期と外れた。

調査地(表1)は、2002年度も県内タカの渡りの主要ルートである丘陵地帯と低山地帯の境付近、及び、JR八高線周辺に設置し、種別観察数(表2)の結果を得た。渡りの方法と推定ルートは観察数が少ないため略す。

調査に際し、35名の会員の方々のご協力を頂きありがとうございます。(小荷田行男)

表2 タカの渡りの種別観察数

調査地	調査日	ハチクマ	トビ	オオタカ	ノスリ	サシバ
金勝山 小川少年自然の家	9/21	1		2	1	3
	9/22		1			
物見山駐車場	9/22			1		
天覧山山頂	9/21					
	9/22					

表1 調査状況

調査地	標高	調査者	調査時と調査時間	天候
金勝山 小川少年自然の家 (小川町)	264m	後藤 康夫 他7名	9/21 8:00~12:00	晴 曇
			9/22 8:00~12:30	
物見山駐車場 (東松山市、鳩山町)	130m	榎本 秀利 他12名	9/22 9:00~12:00	曇
天覧山山頂 (飯能市)	190m	佐久間博文 他16名	9/21 8:30~13:30	晴 曇
			9/22 8:30~13:30	

2002年 秋のタカの渡り観察結果

澤井 清 (鳩山町)

9月15日から9月29日の2週間、物見山(東松山市・鳩山町)にて、サシバを中心としたタカの渡りを観察したので報告します。

月/日	天気	風	観察時間	ハチクマ	トビ	ツミ	ハイタカ	ノスリ	サシバ	S	P
9/15(日)	晴のち曇	北東(弱)	9:00~12:00				1		7		3
9/16(月)	雨	—	—								
9/17(火)	雨	—	—								
9/18(水)	晴	北東(やや強い)	9:00~15:00				2		75		1
9/19(木)	晴	なし	9:00~12:00						1		
9/20(金)	晴	北東	8:30~12:00	1	1	1			12		
9/21(土)	晴	北または西	8:20~12:00		2			1			1
9/22(日)	曇	北東(弱)	8:00~12:00		1						
9/23(月)	晴	北東(弱)	9:00~13:00	1	1				4		
9/24(火)	晴	北東または北	8:00~12:00		7	1	1	3	6		3
9/25(水)	晴	南または北	8:00~12:00			1					3
9/26(木)	曇	北東	9:00~13:00		2				14		
9/27(金)	曇	なし	9:30~11:00								
9/28(土)	曇	西	9:30~13:00								
9/29(日)	曇	南ときどき北	9:00~13:15	1	3	1	3				1

奥日光探鳥会報告

河辺 修造 (さいたま市)

初めての参加です。大宮駅から一路奥日光へ。リーダーを含め参加者24名の車中での自己紹介、本日期待の鳥はアオシギ、オオワシ、何か赤い鳥。

湯の湖畔でカモ類(カワアイサ、ホオジロガモ、ミコアイサ等)を見た後、湯滝周辺へ。カワガラスのお出迎えを受けて幸先良いかと思いましたが、風が強くアオシギは空振りです。

次に低公害バスで、中禅寺湖・千手ヶ浜へ。バスの運転手さんからオオワシが朝方は居たとの情報を得ましたがこれも空振り。はるか遠くに、オシドリの大群、近くでハジロカイツブリを見ました。

一回りした後、バス道を徒歩で戻るとミソサザイが用水路から顔を出します。林の中に、アトリの群、アカゲラ、そしてオオマシコ。ついに赤い鳥を見ることができました。

帰りの低公害バスからは、鹿も見ることができラッキーでした。遠出の探鳥会、今後もどんどん企画してください。

シロハヤブサを見た！

松村 禎夫（さいたま市）

12月初旬の道南でシロハヤブサを見るツアーに参加しないかという話が飛び込んだ。ただし、出発の一週間前までに存在が確認されなければ中止、現地へ行っても見られなければごめんなさいというリスクなツアーだ。しかも、すでに飛行機は取れず、前夜発、新幹線と夜中のフェリーとを乗継いで函館入りし、現地に近い大沼で1泊だけという強行スケジュール。しかし、開業早々の東北新幹線「はやて」にも乗れるので、すぐに手を挙げてしまった。

幸い、彼（彼女？）の出現が確認され、12月6日夜、完全装備で出発。メンバーは16名。凍てつく函館着早朝5時。出迎えのバスでまずは宿舎へ。ここで小休止の後、バスの窓が凍るという厳冬の北海道を実感しながら、約30分で現地、砂原町砂崎灯台へ到着。風雪除けの小屋で待つこと、約1時間。「来た！来た！」とささやく地元で案内してくれた人の指す方向を見ると、いました！いました！

吹雪の中、砂浜の枯草の上にちょこんとぬいぐるみが座っているような正真正銘の淡型タイプのシロハヤブサだ。鼻水をすすり、望遠鏡のレンズの霜を拭き拭きその姿を何度もものぞく。一息ついて、テルモスのお茶で乾杯。しかし、残念なことには、その距離は遠く、1000ミリのレンズをもってしても豆粒程度の証拠写真にしかならない。こんな時のデジスコが羨ましいが、一度のチャンスで写真まで撮ろうとはおこがましいかも知れない。目を転じると、これまた、初認のユキホオジロ数羽が枯草の中から舞い上がっては、また隠れるというパフォーマンスを見せてくれる。これでシロハヤブサの撮影不満を解消できた。

翌朝は、全員鼻歌気分で、内浦湾沿いを北上し、さらに、遊楽部川を遡り、オジロワシとオオワシを時間を気にしながら観察し、正午には函館へとって返した。電車を待つ間、待望の海鮮贅沢丼をかぶりつき、ビール片手に、新幹線に乗継ぐべく八戸へと向かう車中の人となった。函館～大宮間、わずか6時間。

発表！「埼玉県鳥見ランキング」

この企画は本支部のホームページで実施されており、県内で観察した鳥種、或いは、支部の探鳥会に参加した回数を自己申告で競うものです。

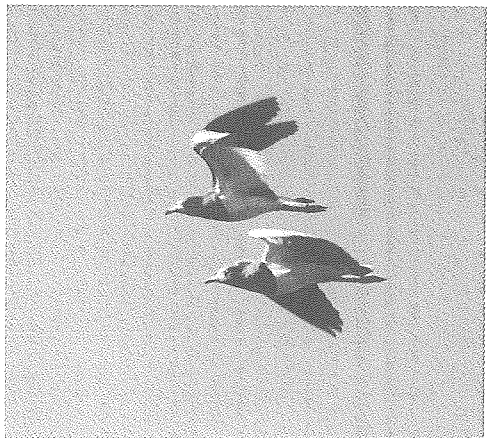
第2回目の2002年は、参加者の意識も高まり、上位者のポイントは極限？に近い記録となりました。

観察鳥種数ランキングでは、志木市の藤澤洋子さんが141種の記録で第1位に輝きました。藤澤さんはマイフィールドである秋ヶ瀬と南古谷で渡り中の夏鳥、冬鳥、特にシギ・チドリを重点的に押さえ、第2位の榎本秀和さんを19種も上回り、文句無しの栄冠です。

探鳥会参加ランキングでは、小川町の鈴木敬さんが昨年を引き続き第1位になっています。参加回数51回は、ほとんど毎週の参加。泊まりがけ探鳥会以外の探鳥会には全部参加という快挙です。

皆さんも今年チャレンジしてみても如何でしょうか。マイフィールドと探鳥会で軽く100種は越えると思います。

本年から新しいランキングを募集します。名称は埼玉県内バードソンです。同一日付の中で何種類の鳥を観察するかを競うもので、日にちはいつでもかまいません。制約条件は、埼玉県内を鉄道、バス、自転車および徒歩で移動する事だけです。個人でもグループでも参加できます。バードウィークに合わせて計画してみても如何ですか。（橋口 長和）



ケリ（松村禎夫）

1. 巣の立地条件

カワセミは土の中に巣を作ります。少ない類例にショウドウツバメがいます。平坦な地面に縦穴を掘るのではなく、垂直に切り立った土の露出した壁面にトンネル状の横穴を掘って作ります。これに適した場所は、河岸懸崖地、古墳や人工的な築山、ゴミ捨て場や芋倉などの法面があります。

1-1. 土の組成

土の露出した地層の垂直分布を見ると、石や小砂利や草木の根が混在する地表の層、次に土砂が締め固められて密度をあげ、軽石と適度の水分を含んだ多孔質な砂礫の層、さらに黒土と赤土と混ざりあって粘土化した火山灰層（関東ローム層）と、積み重なっているのがわかります。巣は、地表の土では石や根がじゃまして掘れませんし、掘っても崩れやすく、関東ローム層から岩盤では堅くて歯が立ちませんので、この二つの層に挟まれた砂礫の地層に作られます。

1-2. 外敵防御

ヘビやイタチ、北海道ではキタキツネやミンクも含め、外敵の侵入を防ぐ立地条件が大切です。地表から下方に離れ、壁面の基部から適当な高さに離れ、出入口あたりがオーバーハングしていれば好条件になります。また、堤外にある土の露出した河岸懸崖地では、巣が水没する危険を避けなければなりません。

2. 巣の形状

巣の出入口の寸法は、横約6~7cm、縦約7~9cmの楕円形です。深さは約50cm~1mくらいで、奥に向かってやや上り勾配



ベニマシコ (♀) (編集部)

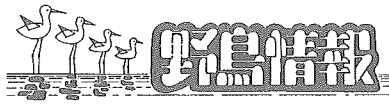
になったトンネル状です。やがてこのトンネル内は親鳥と雛がはじき飛ばす白い液状のフンで塗り固められます。一番奥に産室があります。ラグビーボールを水平に輪切りにして、上半球を地上に置いたような形で、トンネルより天井が高く作られています。産座の床には吐き出したペリットが敷きつめられます。

3. 掘り方

まず、強大な嘴を突き出して狙った地層に体当たりを敢行します。反動で壁面の基部まで跳ね返されます。舞い上がって止まり木に戻り、再度、体当たりです。この繰り返しです。やがて、円錐状の小さな窪みになると、そこを足がかりに止まり、嘴と足の指先で土を引っかき落として掘り進みます。鳥類の足の指は、通常4本で、そのうち3本が前方を向き、1本が後方を向き、それぞれを独立して動かせる三前趾足さんぜんしそくが一般的です。カワセミは前を向いている三趾さんしそくの基部が癒着した合趾足ごうしそくになっています。この強力な足を掘削機がわりにして掘り進みます。この時期のカワセミは、嘴の先端に土を付け、疲れて放心状態で餌場にやってきます。平成8年は4月19、21日、平成9年は3月29日と4月3日、平成10年は4月3日でした。

4. オスの狂気乱舞

メスが幼鳥のように翼を下げて打ち振るわし、オスに甘えて自分から求愛給餌を受けるようになり、交尾も頻繁に観察されるようになると、つがいは一気に巣をどこかに作ります。やがて、巣穴掘りの重労働が完了したことを思わせる、オスの特異な行動を観察できます。メスが休んでいる止まり木を原点にして円弧を描き、メスの目の前で甲高く鳴きながら、縦横に乱舞するのです。止まり木に固執して離れようとしないメスを、完成した巣に誘導するために、オスが強行手段に出たのだろうと思います。メスが誘い出されたかは確認できませんでしたが、それから数日後、オスが餌を持ち帰る方向が変わったり、つがいのカワセミが観察地点から連れだって姿を消すこともあります。平成9年、10年、11年に、このようなオスの賑々しい狂気乱舞が観察されました。



春日部市大池親水公園 ◇11月17日午後3時30分～4時、キンクロハジロ90羽以上、コガモ、コサギ1羽、ユリカモメ4羽、ハクセキレイ2羽、ヒヨドリ、カワセミ1羽、ハシボソガラス。11月14日～11月22日まで水質改善のため、池内数ヶ所に水流を起こす機械を設置して浄化中。水面を波立たせているためキンクロハジロは落ち着かないようでした（石川敏夫）。

春日部市立総合体育館付近 ◇12月1日午後12時頃、オナガガモ♂1羽、マガモ♂1羽、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ♂1羽、コサギ、キジバト、スズメ他（石川敏夫）。

春日部市谷原親水広場 ◇12月3日午前8時頃、カルガモ50～60羽、コガモ約30羽、オナガガモ♂1羽、マガモ♂1羽。12月7日午後12時10分～1時、カルガモ106羽以上、コガモ40羽以上、マガモ♂1羽、クイナ1羽、タゲリ1羽、コサギ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、モズ、アオジ、ツグミ他（石川敏夫）。

越谷市七左町 ◇12月31日午後1時45分、自宅庭でキセキレイ1羽。茶の間から庭を見ていたら、つくばいにとまった。急いでビデオを取り出して、撮影に成功した。越谷市では珍しい（小菅靖）。

菖蒲町菖蒲中学校 ◇1月4日午前11時過ぎ、中学校南側グラウンドでミヤマガラス約700羽。コクマルガラスも数羽確認。そのうち1羽はいわゆるシロマル（榎本秀和）。

坂戸市石井栄池 ◇12月1日、スズガモ2羽、1羽は嘴の基部が白く♀、もう1羽は基部が白くなく全体に褐色なので♂エクrips

と思われる。坂戸市内では初認（増尾隆・節子）。

川本町上原 ◇12月15日午前10時頃、白髭神社鎮守の杜の樅の木にオオタカ成鳥1羽がとまる。午前10時35分頃、杜の西の畑上空でオオタカがカラスに追われていたが、旋回しながら高度を上げ、次に水平飛行で逃げきる。午前11時頃、杜の南の住宅前に広がる田んぼにタゲリ4羽が飛来した。自宅の近所で見るのは初めて。午後2時35分頃、オオタカが朝と同じ樅の木にとまる。こちらに背を向けてとまったので逆光になったが、夕日を受けて辺りを見回したり、羽繕いをしていた。12月20日午前6時55分頃、自宅庭の白木蓮に初めてアオゲラが来た。アオゲラは3月に鎮守様の境内で見て以来である。12月23日午前8時23分頃、近所の一番高い杉の木の頂上にオオタカの成鳥がとまる。青空をバックにこちらに正面を向け、真っ白いフサフサした胸に朝日を受けて、凛々しくとまっていた。傍の養鯉池ではカワセミが枝にとまったり、ホバリングして水面にダイビングしたりを繰り返していた（大澤あつし）。

狭山市智光山公園 ◇12月25日、ヨシガモ♀各1羽、マヒワ2羽、ルリビタキ♀2羽計36種（久保田忠資）。

深谷市仙元山 ◇12月29日午前11時頃、南側斜面でトラツグミ1羽、今季初認。神社裏でアトリ2羽、当所では6年ぶり。他にアカゲラ、カケス、カシラダカ、シロハラ、ツグミ、カワラヒワ等。相変わらず種類、個体数ともに少ない（新井巖）。

深谷市高島利根川河川敷 ◇1月1日午後2時頃、タゲリ約50羽、ハヤブサが出現して一斉に飛び立った（新井巖）。

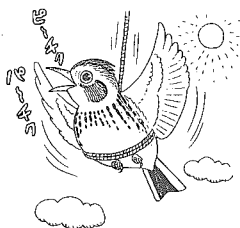
表紙の写真

チュウヒ（タカ目タカ科チュウヒ属）

撮影：内田孝男（茨城県総和町） 撮影場所：渡良瀬遊水地

冬の渡良瀬遊水地を代表する鳥。葦原のあちこちで、翼を少し上げたV字形の滑翔をしている。獲物は主にネズミ類。スズメ・カモ類や、カエル・ヘビなども。渡良瀬遊水地では、日本で記録されているチュウヒ属3種が全部記録されている。ハイイロチュウヒは少なく、マダラチュウヒは稀れにだが。（解説：編集部）

行事案内



ヒバリ (富士鷹なすび)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般100円、会員と中学生以下は50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集場所までお出でください。

石戸宿定例探鳥会

期日：4月6日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス8:40発にて「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、立岩、永野(安)、永野(京)、山野、樋口

見どころ：探鳥会の前日が24節気のひとつ「清明」にあたります。いま、石戸宿は桜花らんまん。

さいたま市・民家園周辺探鳥会 〈見沼ヘルシーロードコース〉

期日：4月6日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場。念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場から大崎園芸植物園行き8:31発に乘車、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：伊藤(芳)、手塚、工藤、倉林、若林、土澤、吉岡(洋)、新井(勇)、石田

見どころ：つらい花粉の時期(人にもよりますが)も峠を越え、ようやく巡ってきたキモチイイ季節。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会 「干潟を守る日2003」参加行事

期日：4月6日(日)

集合：午前8時15分、東武日光線柳生駅前。

または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線、新越谷7:11→春日部7:25→栗橋7:54→柳生8:04着。JR宇都宮線大宮7:16発→栗橋7:43着、東武線乗換。

担当：橋口、伊藤(隆)、内田、四分一、田邊、玉井、田村、中里

見どころ：内陸湿地の大切さを考えながら、谷中湖の残りガモや谷中村史跡で羽を休める夏鳥を探します。昼食持参でお出かけ下さい。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：4月13日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷駅9:11発、又は寄居駅8:49発に乗車。

担当：後藤、和田、森本、中里、石井(博)、倉崎、高橋、藤田、栗原、飛田、大澤

見どころ：“谷渡る春告げ鳥の春の歌、木もれ陽浴びて、我、一休み。”(愚作)

「しらこぼと」袋づめの会

期日：4月19日(土) 午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：4月20日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。又は午前9

時、さいたま市立浦和博物館

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺(周)、
若林、森(力)、小菅、新部、赤堀、兼元

見どころ：さくらの花も散って、少し静かな
三室になりました。そろそろ夏鳥の到
来が期待されます。

東松山市・物見山探鳥会

期日：4月20日(日)

集合：午前9時30分、物見山駐車場(高坂方
面から峠の右側)

交通：東武東上線高坂駅西口から、川越観光
バス鳩山ニュータウン行き8:46・
9:00発にて「大東文化大学前」下車、
バス進行方向徒歩5分。

担当：藤掛、岡安、後藤、島田、池永、志村、
立岩、増尾、山田(義)

見どころ：暦では穀雨(こくう)、里山の新
緑も一段と鮮やか、ウグイスの声も響
き渡る、素晴らしいコース。

さいたま市・秋ヶ瀬公園

期日：4月27日(日)

集合：午前9時10分、「諏訪前橋」バス停。

交通：京浜東北線浦和駅西口バスロータリー
5番乗り場より、「荒川総合公園」行
き8:39発にて「諏訪前橋」下車。

担当：倉林、小林、百瀬、渡辺(嘉)、森(秀)

見どころ：遠くに霞む、奥秩父や奥多摩の
山々を眺め又、林の中で春を感じなが
らひとときを過ごしましょう。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：4月29日(祝)

集合及び交通：午前8時30分、東武伊勢崎線
春日部駅西口朝日バス1番バス停前。
集合後、春日部エミナース行き8時45
分発バスにて「共栄大学・短大前」下
車。又は午前9時15分、アスレチック
公園前駐車場に集合。

解散：正午頃

担当：吉安、橋口、中村(榮)、新井(良)、松永、
宮下、吉岡(明)、田村、廣川、野村

見どころ：雑木林で渡り途中の夏鳥、田んぼ
ではムナグロ、上空にオオタカなどに
期待しましょう。

長野県・白馬山麓探鳥会(要予約)

期日：5月10日(土)～5月11日(日)

集合：10日午前9時15分、JR長野駅善光寺口(西
口)駅前広場。

交通：長野新幹線「あさま551号」(大宮7:18→熊谷
7:32→高崎7:49→長野8:43着)。または
「あさま1号」(大宮7:52→長野8:53)。

費用：10,000円の予定(1泊3食、現地バス代、
保険料など)。万一過不足の場合は当日精
算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：20名(先着順、支部会員優先)

申し込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、
電話番号、参加回数^①を明記して、小池一男
まで。

担当：小池(一)、小池(順)、岡安

見どころ：あなたの頭脳に野鳥、山野草、チョウ
がギュッとパッキング。疲れた頭脳にはア
フターの温泉が効きます。

その他：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意
はできません。

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会

期日：5月24日(土)～25日(日)

集合：24日午前9時10分、長野駅コンコース新幹
線改札を出て右側

交通：前項白馬山麓と同じ

費用：11,000円の予定(1泊3食、現地バス代、
保険料等)。万一過不足の場合は当日精算。
集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：30名(先着順、県支部会員優先)

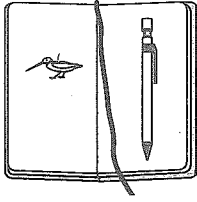
申込：往復葉書に住所、氏名、年齢、性別、電話
番号を明記して、菱沼一充

担当：菱沼、北川、藤掛、中里

見どころ：春のコンサート、森の美声の主達の共
演です。

その他：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意
はできません。

はみ出し行事案内12ページへ



行事報告

10月27日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 39人 天気: 曇

カイツブリ ミミカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ オンドリ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ キンクロハジロ トビ チュウヒ オオバン アオアシシギ イソシギ タシギ ユリカモメ セグロカモメ シラコバト キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ セッカ シジュウカラ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) 谷中湖には思った以上のカモが到来していた。渡良瀬では珍しいオンドリがいたりして、今シーズンは期待できるカモ? ミミカイツブリやカンムリカイツブリをゆっくり観察しながら谷中村跡へ向かう。堤防上の柳の木にはジョウビタキが姿を現したが、屋敷林はちょっと静かだった。終わってみれば41種と、鳥の種類が参加者より多かった。(橋口長和)

11月2~3日(土~日) 長野県 白馬山麓

参加: 27人 天気: 曇時々雨から雪

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ オオヒシクイ ハクガン コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ ミサゴ トビ オオタカ ハヤブサ オオバン キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カワガラス ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ マヒワ ベニマシコ イカル シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (58種) 白馬周辺は一面積雪。探鳥だから鳥を

探すわけだが、これに一苦勞。唐花見湿原はミヤマウメモドキがかつてないほどにきれいだったが、鳥が少ない。大峰高原ではみごとなホザキヤドリギを観察するが、やはり鳥が少ない。時雨模様のなか居谷里湿原、青木湖、姫川ダムと回るが、こも鳥が少ない。夜半から雨が強くなり、参加者を交えて翌日のコースを協議した結果、朝日池にだめもとで行くことに決定。雨天の道中だったが、朝日池に着くや雨が上がり、かなりの水鳥を観察できた。帰路途中の田んぼでハクガンを偶然発見し、かなり近い距離から観察できたので、リーダー一同やれやれと胸をなでおろした。(小池一男)

12月1日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 42人 天気: 曇後雨

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ コクガン マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ミサゴ トビ オオタカ イソシギ ユリカモメ セグロカモメ シラコバト キジバト ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ホオジロ アオジ オオジュリン スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 谷中湖は思ったほどカモがいない。湖面を眺め回していると「あれ? コクガンじゃないの」という声。一同びっくり。南ブロックの400m程度離れたところに5羽のコクガンを発見。北ブロックの近場に移動したので、コクガンの特徴もハッキリ確認でき、数人がデジカメで撮影した。その後、雨足が強くなり、中の島で鳥合わせし解散したが、参加者全員が満足。(橋口長和)

12月1日(日) 北本市 石戸宿

参加: 36人 天気: 曇

カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ キジバン キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ

モズ ルリビタキ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 今にも降り出しそうな空模様だったが、幸いにも持ってくれた。行く先々でシメとアトリの群れが見られた。最後になってやっとルリビタキが出てくれてホッとした。越冬中の珍鳥は次回に期待しよう。(岡安征也)

12月8日(日) 岩槻市 岩槻文化公園

参加：36人 天気：曇

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ ハシビロガモ オオタカ チョウゲンボウ イカルチドリ イソシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 村国池のところでは、いつもと違って出現鳥が少なくて心配させられたが、散策の森では、アオジ、アカハラ、シロハラ、カケス、アトリ等が次々に見られ皆を喜ばせた。また、葦原では、チョウゲンボウ、オオタカまでも見られた。出現鳥も多く、満足してもらえたと思う。(中村榮男)

12月15日(日) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加：62人 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ ミコアイサ ハイタカ ノスリ バン キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ イカル シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (43種) 鳥影を求めて山田大沼まで歩く。カワウのゴロニーと化してしまった大沼だが、岸边に浮かべた糞害対策の筏が目をはく。水面にはミコアイサ♀タイプ2羽。♂のエクリプスとの声も出たがいかがなものか。(榎本秀和)

12月15日(日) さいたま市 三室地区

参加：65人 天気：晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ コハクチョウ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ キジ クイナ バン オオバン イカルチドリ タシギ ユリカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガハシブトガラス ハシボソガラス (42種) 年の暮れは三室の鳥をと常連の鳥見人がやって来た。天気もよく、にぎやかな探鳥会だ。芝川沿いのいつもの森で休憩しようとしたら、真っ青な空を元気に飛んでいくコハクチョウ8羽が見えた。初出現なのだ。全員感激、早いお年玉を戴いた。探鳥会の最後は館長さんのご挨拶で締めた。(楠見邦博)

12月21日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：12人

伊藤泰一郎、江浪功、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、倉林宗太郎、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、藤野富代、増尾隆、松村禎夫

12月22日(日) 年末講演会

参加：60人

講師に新和ツーリストの日比彰氏をお招きして、スライドを見ながらの世界の探鳥地・探鳥事情についてお話いただく。そのあと世界中の(そこでは普通の)野鳥の話題に転じるのだが、海外経験豊富かつ博識の氏のお話に、参加者の興味は尽きない。懇親会にも多数の参加があり、探鳥談議に花が咲いた。(榎本秀和)



はみ出し行事案内

シギ・チドリ類県内調査

期日：4月29日(火・祝)

当支部では、春と秋の2回、シギ・チドリ類の調査を行っています。下記の地点の調査では、より多くの会員のご参加ご協力をお願いします。

さいたま市大久保農耕地

集合：午前9時30分、大久保浄水場北西角、運動公園管理事務所付近の土手の上。

担当：石井智

解散は昼ごろ。参加費不要。雨天決行。

連絡帳

●住所の表示と郵便番号が変わりました

下欄の通り、郵便番号が「330-0064」に、住所の表示が「さいたま市浦和区岸町」に変更になりました。

●鳥獣保護員継続推薦

全県地域担当の鳥獣保護員として、今年も引き続き福井恒人幹事を推薦しました。

●普及活動

1月30日(木)から2月20日(木)まで4回にわたり、さいたま市原山公民館で開催されたバードウォッチング入門講座で、陶山和良が指導しました。

2月1日(土) 富士見市びん沼自然公園周辺で開催された富士見市青年の家主催の野鳥観察会で、高草木泰行、池内輝明、藤澤洋子が指導しました。

2月23日(日) 比企郡小川町の小川少年自然の家で開催された野鳥観察会では、前回に引き続き後藤康夫、和田康男、青山紘一、大澤祐の4名が指導しました。

●県がカラス対策会議開催

3月1日付け埼玉新聞によれば、「県が行ったアンケートに、人への威嚇・ごみの散乱・ふん害などの被害を報告した約50市町村を集めて、3月中旬に対策会議を開くが、県みどり自然課は『人間がライフスタイルを変えて、ごみを減らすことが一番の対策』と話している。」とのことです。

●4月の事務局 土曜と日曜の予定

5日(土) 5月号編集作業。普及部会議。

12日(土) 5月号校正。研究部会議。

19日(土) 袋づめの会。

20日(日) 役員会

●会員数は

3月1日現在 2,599人です。

活動報告

2月1日(土) 普及部会議(9月初めまでの行事予定案作成・4月13日の大麻生200回記念探鳥会について・その他)。

2月8日(土) 3月号校正作業(喜多峻次・工藤洋三・大坂幸男・山田義郎・藤掛保司)。

2月9日(日) にも(海老原美夫)。

2月8日(土) 午前本部の常務会、午後理事会、夜懇親会に出席(海老原美夫)。

2月16日(日) 役員会議(司会：田邊八州雄、各部の報告・3月8日評議員会への対応・9月初めまでの行事予定・その他)。

2月17日(月) 支部報のみの会員宛て3月号を郵便局から発送(倉林宗太郎)。

編集後記

春とともにN編集部員も元気に復活。やはり全員集合してワイワイガヤガヤの編集作業が一番楽しい。(山部)

しつこい風邪の咳が止まらないうちに、花粉症の季節になった。うー。(森本)

しらこぼと 2003年4月号(第228号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社